



西尾いきものふれあいの里だより

3月号

2026.3.1 発行

さとやま

3月の里といきもの

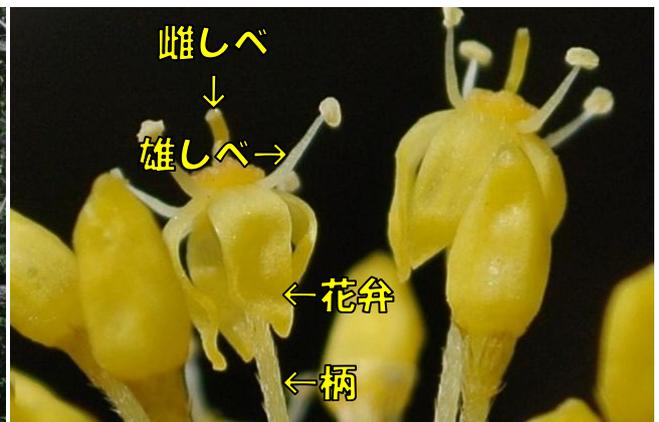
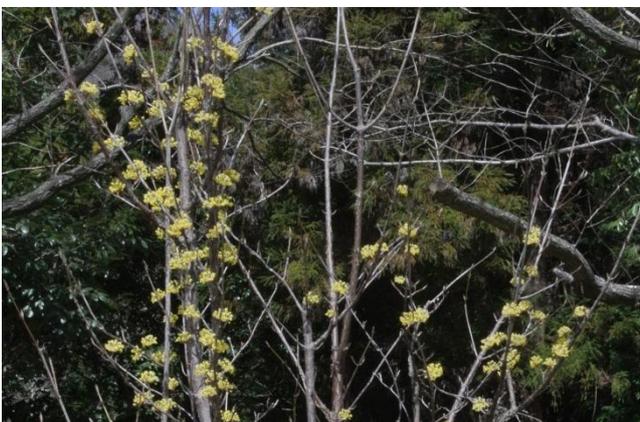


今年の2月は、初旬に気温の低い日がありましたが、中旬には3～4月並みの気温になることもありました。3月にはさらに気温が上がっていくことでしょう。

そんな里のセンター前には写真の矢印のところに2本のサンシュユの木があり、この時期に花をつけます。

ミズキ科の落葉小高木で、春先の葉が出る前、小さな鮮やかな黄色い花を咲かせます。中国、朝鮮半島原産で、日本では庭木や公園樹として親しまれています。

枝先に散形花序（さんけいかじょ）という形で花がまとまって咲き、1つの花序に10～20個ほどの小さな花が集まっています。花弁とがくは4枚で、がくは小さくて、反り返った花弁に隠れて目立ちません。中央に雌しべが1本、その周囲に4本の雄しべが突き出しています。それぞれの小花には短い柄があって、全体として丸くふわっとした印象になります。





花序の根元にあるものは4枚の総苞片（そうぼうへん）で、がくではありません。花が終わると、花弁と雄しべが落ちて、がくが見えるようになります。その後すぐに葉が出て、あまり目立たなくなりますが、葉の陰で子房が成長していきます。

秋になると実は赤く熟します。里ではあまりたくさん実りませんが、毎年1～2個、目にすることができます。まだ残っているかもしれません。

生食には向きませんが、乾燥させた実は、ほんのり甘酸っぱく、ちょっと梅干しにも似た風味があるそうです。滋養強壮、疲労回復、冷え性の改善などに効果がある漢方薬として使われます。また中国や韓国では、果実酒やお茶、ジャムに加工されることもあります。



3月はこないきものも見られます

気温が上がってくると里は様々ないきものが見られるようになり、にぎやかになります。

ビオトープなどの湿った場所では、サギゴケ科の多年草、**ムラサキサギゴケ**の花が一面に咲きます。その姿は、鳥のサギが翼を広げたように見えます。

センター裏のエアコンの室外機付近では、キク科の多年草**フキ**の花芽である、「ふきのとう」が見つかります。天ぷらなどにして食べられますが、タンポポのような花が集まって咲くころには硬くなり、苦みやえぐみが出て食べられません。雌雄異株で、雌花は花が終わると、綿毛の付いた種ができます。

田んぼエリアの、休憩所の近くでは、キンポウゲ科の多年草、**ヒメウス**の小さな下向きの花が咲きます。烏頭（うず）とは猛毒のトリカブトのことで、葉が似ているので名がつきました。トリカブトほどではありませんが全草に毒があるので、口にするとお腹を壊したりするので要注意です。



田んぼのあぜなどには、ヘビイチゴに似ているバラ科の多年草、**ミツバツチグリ**が咲きます。葉が細長く、副がく片が小さく見えないこと、赤いイチゴが実らないことで見分けることができます。

ショウジョウバカマの小径などの小川では、シュロソウ科の多年草**ショウジョウバカマ**が咲きます。花が伝説上の動物「猩猩」（しょうじょう）の頭、葉が袴に見立てられます。

小川沿いの湿った場所には、ユキノシタ科の多年草**ヤマネコノメソウ**が群生しています。果実は、熟すと2つに裂けて中の種子が見え、それが猫の目のように見えます。種子は雨粒で跳ね飛ばされる、「雨滴散布（レインスプラッシュ）」という方式で周囲に広がります。



里全体の林では、漬物のようなにおいを放ちながら、モッコク科の常緑小高木、**ヒサカキ**の花が咲いています。雌雄異株で、雄しべだけの雄花、雌しべだけの雌花のほかにも、中間型のものも見られます。榊（サカキ）のない地方では、代わりに神棚に飾ることもあり、姫榊とか非榊から名がついたと言われています。

庭木にもよく使われる、ガリア科の常緑低木**アオキ**も雌雄異株で、まず雄株に雄しべだけの雄花が咲き、遅れて雌株に雌しべだけの雌花が咲きます。

長円寺と万灯山のロータリーでは、愛知県の木に選定されている、ムクロジ科の日本固有の落葉高木**ハナノキ**が、サクラが咲く少し前頃に、葉より先に開花します。



万灯山の山頂付近には、月末のサクラが咲くころ、ツツジ科の**コバノミツバツツジ**が咲きます。他のツツジと違い、葉より先に花をつけるので、薄ピンク色が煙ったように美しく見えます。

また、里全体で**ニオイタチツボスミレ**をはじめとした、様々な種類のスミレがその環境に適した場所で咲きだします。

よく晴れた日には、成虫で越冬する蝶たちが、日向で体を温めるように、少し破れたり色褪せたりしている翅（はね）を広げている様子が見られます。タテハチョウ科の**テングチョウ**は、頭部が前に突き出していて、まるで「天狗の鼻」みたいに見えるのが名の由来です。

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われています。暖かくなった里で、春のいきものを探して散策してみましょう。

2月の行事紹介

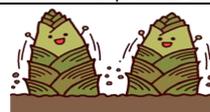


2月7日(土)、8日(日)、15日(日)3日間で「竹炭を焼こう」の講座を開催しました。7日からの寒波で、8日は里も雪が積もる中での講座となりました。

1日目は、トンボの里の竹林の竹を間引き、炭焼小屋まで運び、炭焼窯に入れる長さに竹を切り、割って節をとり、窯の中にきれいに詰めました。

2日目は、窯に火を入れ、火を絶やさないよう窯の火を見張って、約6時間かけて焼きました。この作業の間には、切ってきた竹で器や箸などを作りました。

3日目は、出来栄を気にしながらの窯出しです。炭焼窯の火の元と奥では、窯の中の温度差により、竹炭の出来栄が違います。窯の中を工夫して火力調整を行い、出来の良い竹炭が多くでき、参加者で分けて持ち帰りました。



4月の行事予定

5日(日)	タケノコ掘りで竹林整備しようⅠ ※注1	30名	AM9:30~11:30	当園職員
12日(日)	タケノコ掘りで竹林整備しようⅡ ※注1	30名		

内容：里の竹林整備・環境学習の一環として、トンボの里の竹林でタケノコ掘りを体験します。竹林整備の仕方、タケノコの生え方などを教えてもらい、実際にバチ鋏(くわ)を使って採り方を学びます。

「※注1」の講座は3月15日から受付しますが、両日への申込みはできません。

19日(日)	春のいきものを探して 里山を散策しよう	20名	AM9:30~11:30	高須桂子
--------	------------------------	-----	--------------	------

内容：春の里山で、植物や昆虫・鳥などを観察しよう。
タンポポのそっくりさんを何種類みつけられるかな？

26日(日)	ゆっくり俳キング	20名	AM9:30~11:30	服部くらら
--------	----------	-----	--------------	-------

内容：里山はゆっくり歩くとお宝があちこちに一杯です。出会ったそのお宝に一言声かけをすると、もう俳句ができてしまいます。みんなで一句ひねっちゃいましょう。

- ◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下の場合**は開講しません。
- ◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。小さいお子さまには、目を配るのに**十分な保護者の同伴**をしてください。
- ◇ **当日の天候により**、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始[12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課